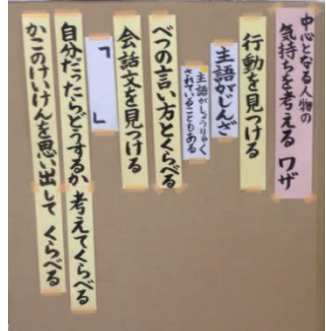


効果のあった実践事例

学年 第3学年 教科等 国語科
単元・内容 ボックスポップを作ってしようかいしょう「サーカスのライオン」
○ ねらい ・ 叙述をもとにイメージをふくらませ、登場人物の気持ちを想像することができる。 ○ 手立て ・ 単元のはじめにボックスポップの例を提示し、ゴールを明確化することで学習への意欲を高める。 比較させたい言葉を焦点化して示す。 動作化して言葉の意味を理解させる。  ボックスポップの例 1 登場人物の行動の描写を見付けるために、主語が登場人物になっている文に注目させる。 2 教材文の表現と似ている別の表現を提示し、2つの言葉を比較させることで、教材文の表現について想像を広げさせる。また、言葉からどのような様子なのか動作化することで、言葉の意味を理解させる。 3 登場人物の心情を想像するために、自分に置き換えて自分だったらどうするかを考えて比較させる。 4 登場人物の心情を想像するために、自分の経験を思い出して比較させる。  考えるワザの掲示 ☆ 「登場人物の気持ちを考えるワザ」として、1～4のポイントを掲示しておく。 ○ 児童の変容 1 主語を見付けることで、登場人物の行動をつかむことができた。 2 例えば、「起きた」と「はね起きた」を比較した際に、「はね起きた」の方が急いで起きたという気持ちが表れているといったように、登場人物の気持ちを行動から読み取ることができた。また、動作化することで言葉が表す意味を理解することができた。 3 自分に置き換えてどう行動するか考えることで、登場人物の気持ちを想像することができた。 ○ 実践者のコメント 登場人物の気持ちを想像することに課題がある児童のために、中心となる人物の行動の見付け方、読みを深めるための手立て、2択問題の設定や違う表現の比較等行った。特に「起きた」と「はね起きた」の違いを考えさせることを通して、行動を表現する言葉からじんごの気持ちが表れていることが理解できた。 単元を通して、場面の移り変わりとともに変化する中心となる人物の気持ちを読み取る力を付けるために、心情の変化を表現できるようにボックスポップという形で、2年生に紹介文を書くことを単元のゴールに設定した。教材文で学んだことを生かして、自分が選んだ本を紹介するという目的意識をもたせた。単元のはじめから並行読書をさせ、お気に入りの1冊を選ばせ、単元の全体計画を提示して見通しをもたせたることで、児童は単元を通して意欲的に学習に取り組んだ。